

RNNReligious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよがぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献トピア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212 岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

アドレス <http://www.rnn-center.org/>

RNN事務局長：黒住宗道



RNNフォーラム

第9回 おかやま 国際貢献NGOサミット

宗教は平和の担い手になりうるか

平成14年 9月26日
岡山国際交流センター

9月26日、29日に岡山市の国際交流センターをメイン会場に開催された第9回おかやま国際貢献NGOサミットで、初日の26日に「RNNフォーラム」が開催されました。フォーラムでは、米同時多発テロから一年を経て「宗教は平和の担い手になり得るか」を問い直すべく、北アイルランドのテロ組織「アルスター義勇軍」(UVF)に所属していた元テロリストで、現在、来日して兵庫県の西播磨教会の牧師として宣教にあたっているヒュー・ブラウン牧師を講師に招き、講演とパネルディスカッションを開催しました。

そよがぜ編集部

元テロリスト ヒュー・ブラウン牧師が基調スピーチ

RNNフォーラムは、午後2時に開会し、最上稲荷教の岡光実社会部長の開会の辞に続いて、立正佼成会岡山教会の小坂田浩嗣氏の先導による「平和の祈り」が行われ、参加者全員で、昨年9月11日のテロの犠牲者やアフガン難民問題の解決などをはじめ、世界に真の平和が訪れることを願って黙祷を捧げました。

主催者を代表して挨拶した西村美智雄RNN委員長（金光教平和活動センター専務理事）は、トピアの会

そよがぜ 小与加世

今年も、早くも年の瀬を迎えました。それぞれ、どんな一年だったでしょうか。世界に、そして社会に何か暗雲が垂れ込めているといった感じがする。そんな中、明らかな気分になれない。一年のようでした。その雰囲気を作り出しているのは日々私たちの目に届いてくる紛争、テロなど暴力の行使（あるいはしようとしている）場面や政治、経済の腐敗の情報の数々、超氷河期とも言われる就職難などです。▼私たちが信仰者はいつどこにあっても、悩み苦しんでいる人々、道を求めるように招かれています。特に、声をあげられない人の叫びを受け止めることに努めます。▼ところが、宗教の名がいのちをもてあそばさることに使われもします。昨年の9・11テロ、それに続く報復攻撃（著名な言語学者チヨムスキーは「国家テロと呼ぶ」）で、多くの人が犠牲となりました。自らの行為を正当化するために、宗教を両者とも、前面に押し出しました。いまだに、宗教は利用価値があるのです。▼この一年あまり、私たちRNNは「いのち」に重きを置くはずの宗教が、信仰者がいったいこの事態にどう答えるのかという問いと向かい合ってきたように思います。さまざまに分ち合いの中で、それぞれ神仏と自身との関わり、政治と宗教との関わりなどについて率直に話しました。仏教者が、神道者が、ムスリムが、キリスト者が一同に会することは不思議ではなく、「いのち」を喜び合うために、むしろ神仏が望まれていることと確信できたのではないのでしょうか。

RNN副委員長 後藤正史
(岡山カトリック教会主任司祭)

神と出会いテロリストをやめ宣教師に



日本伝道隊 西播磨キリスト教会牧師
ヒュー・ブラウンさん

1957年生まれ。北アイルランド・ベルファスト出身。北アイルランド紛争で、IRAと激しく対立したテロ組織「アルスター義勇軍」(UVF)のテロリストとして活動。刑務所で映画「ベンハー」を見て改心して脱会後、来日し、85年から兵庫県西播磨キリスト教会牧師。教諭師として青少年の更正に従事し、各地で講演活動も行っている。著書に『なぜ、人を殺してはいけないのですか』(幻冬舎)

今まで感じることの無かった罪という意識が芽生え、「命は神から与えられたもの。一人ひとりの人間の中には神様から与えられた尊い魂があり、神様に生かして頂いているのだ」と命の尊さに気付いたのです。刑務所をあと半年で出所すると言う20歳の時でしたが、私はテロ組織をやめなければならぬと考えるようになりました。テロ組織は「やめたい」と思っても、簡単にやめることは許されません。重い犯罪に関わり、組織の情報を持った人間がやめることは絶対に許されるこ

とはなく、殺されるかも知れないのです。しかし、私は「殺されても組織を離れなければならない」とクリスチャンになることを決心しました。同じ刑務所に入っていたテロ組織のボスは、当初、激しく怒って許してくれませんでした。が、最後には私の決意が本物と分かって、私が明日出所するという夜に、仲間の前で「これから頑張れ」と握手をして送り

出してくれました。その後、戻って来いと声をかけられることはありませんでした。私が『なぜ、人を殺してはいけないのですか』という本を書いたのは、日本の若者に人の命の尊さを教えたかったからです。日本の教育の中には宗教がないため、先生方も命の尊さをどう教えていいのか分からない

命の大切さを教える宗教教育

私は信仰によって命の尊さを教えられました。今日は私の話から、宗教が紛争や戦争の原因ではなく、解決の大きな役割を担っているということを理解して頂ければ幸いです。

テロリストではなく英雄だった

私は北アイルランドのベルファストで、イギリス本土から移民してきたイギリス系住民の家庭に生まれました。生まれた当時はまだ紛争は起こっていませんでしたが、イギリス系住民とアイルランド系住民の間に、酷い差別や不信感が生じ、いつ紛争が起こってしまうか分からない状態でした。

1969年、住民たちの差別と憎しみと不信感が爆発してとうとう紛争という状態になり、殺し合いが始まってしまいました。私は12歳でしたが、毎日のように無差別な爆弾テロ事件を

見聞きするようになり、例えば道を歩いていると、道ばたに止めてある車が突然爆発するかも知れないという危険と背中合わせの生活になりました。それまで一緒に暮らしていたアイルランド系の住民とは接することがなくなり、そんな中で私たち子供は、大人たちからアイルランド系の住民の悪い話ばかりを聞かされ、実際にイングランド系の住民が殺されたりするのを見て、人間だったらこんな酷いことをする訳がないとアイルランド系住民への憎しみを抱くようになっていきました。

私たちのような十代の少年は、テロ組織の人たちを「民族、住民のためにIRAと命をかけて戦う英雄」と信じていて、自分たちも戦いたい、と思っていました。テロ組織の方もそのことをよく分かっていたので、少年たちを若いうちから取

り込んでいくのです。私は15歳でUVFに誘われ、テロリストになるという意識は全くなく「住民を守る英雄になるんだ」という気持ちで、迷いなく入りました。そして爆弾の扱いを覚え、本格的にテロ活動に携わるようになりました。3年間活動していて、沢山の人が命を落とし、何度も危ない目に遭っては、奇跡的に助かってきました。対立組織に自宅で双子の弟とともに拉致され、拷問を受け、けん銃で両ひざを撃ち抜かれたこともありです。弟が銃で撃たれたときの悲鳴は今でも忘れられません。殺されずにそのまま放置されて奇跡的に命を拾いました。

それからは、毎晩、拳銃を枕の下において寝ていました。18歳の時に捕まって政治犯として刑務所に入れられたのですが、

実は、やっと、夜、安心して眠れるようになったのです。そんな危ない目に遭って、それまでになぜやめなかったのかとよく聞かれますが、私たちにやめるという選択自体がなかったのです。刑務所に入ったことによって私の人生観を百八十度変えてしまうような不思議な体験をしました。

ベンハーを見て初めて神を意識



2002 OKAYAMA NGO SUMMIT FOR INTERNATIONAL CONTRIBUTION
2002 おかやま国際貢献NGOサミット

※主催：国際貢献・ボランティア岡山県民会

のが現実のようです。

北アイルランドは3年前にようやく和平合意がなされましたが、33年もの間、紛争が続いたのは、仕返しを繰り返したからです。愛するものが殺され、その仕返しでまた相手を殺すというきりがないものでした。紛争の中で家族を殺されてない人はいないでしょう。

すべてを神に任せ相手を赦す

被害者は加害者を許(赦)さない限り、いつまでも被害者でいなければなりません。その被害が益々大きくなり、憎しみ、怨みが大きくなっていく。相手の罪を赦すというのは、相手のためだけでなく、自分のためにも必要なことなのです。宗教、信仰を持つことで、憎しみ怨み乗り越え、罪を赦すことができます。それは、すべてを神様に任せることができるからです。信仰がなければ自分で復讐するしかありません。

戦って殉死すれば神に召されるというイスラム原理主義は特別なものですが、北アイルランドや南アフリカ、旧ユーゴなどを見ても、紛争の原因は差別が多く、差別を受けた民族が反発して戦いに至っています。職業、教育などにおいて平等な権利が与えられていないのです。残念なことに、その差別の多くが宗教のせいだと言われているのも現実で、宗教指導者たちが、お互いを認め合い、差別はいけないという模範になり、信者に差別はだめだと教えなければなりません。北アイルランドの場合、当時の宗教指導者たちは、このことを国民に伝えることができませんでした。

マスコミが、宗教が紛争の原因だと報道していることもあって、特に日本では宗教が紛争、差別の原因だと信じ込んでいる人が多いのは寂しいことです。北アイルランド紛争について、日本人の多くは宗教と関係があると思っていますが、それは大きな誤解です。IRAもそうですし、私の組織もそうでしたが、テロ組織にいた周りの人間

たちは、無神論者たちばかりで、神という言葉の口にする時は、神を冒瀆する時だけでした。「あなたは宗教のために戦っているのか」と聞くと、笑われてしまっていました。

IRAも、カトリックの信者が迫害を受けているかのように見せかけ、アメリカのアイランド系住民からの資金を得ているのです。宗教が、政治家やテロ組織に利用されているだけなのです。宗教者としてそういうところにつけ込まれないように心掛けていくことも必要です。私は、1985年1月13日に来日しました。日本には布教活動にきているのですが、信仰を強制的に押しつけることは絶対にしませんし、教会の人たちにもそう教えています。

宗教は紛争の原因ではなくて、争いを解決するものです。宗教、信仰によって人の命の尊さを知ることができ、寛容な心で相手を赦すことができ、平和な社会をつくることのできるのです。(文責在編集局)

宗教は紛争の原因ではなく、解決に貢献するもの。

ブラウン牧師の基調スピーチを受けて、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターは、後藤正史RNN副委員長(岡山カトリック教会主任司祭)が務め、ブラウン牧師、黒住宗道RNN事務局長(黒住教副教主、トビアの会副会長、西村美智雄RNN委員長(金光教平和活動センター専務理事)、永宗幸信RNN副委員長

寄せられる宗教への期待

後藤神父の指名を受けて最初に発言した黒住事務局長は、2000年8月にニューヨークの国連本部で「赦し・寛容」をテーマに全世界の宗教者が一堂



パネル RNN事務局長
黒住宗道 黒住教副教主

に会して「ミレニアム世界平和サミット」が開催されたことなどを報告しながら、報復の連鎖

後藤神父を司会に。パネルディスカッション



パネル RNN委員長
西村美智雄 金光教平和活動センター専務理事



パネル RNN事務局長
永宗幸信 天台宗本願寺派副住持

断ち切るためにも「赦し・寛容」の宗教精神が求められているということを紹介しました。

逆に、宗教がジャスティス正義との理念のもとに自己の正当性を主張することの危険性も訴え、お互いを理解することの必要性を訴えました。

昨年9月11日の米ニューヨークテロの後、11月3日にRNNのボランティア講座として日本ムスリム協会の樋口美作会長を迎えて、イスラムを理解する勉強会を開いたのははじめ、今年1月にはアフガンの実情を理解するために、ベシワール会の中村哲現地代表を招いて講演会を開催したことなどRNNとしての取り組みを紹介しました。

飢餓、差別、南北問題も深刻

次いで西村委員長は、KPCA金光教平和活動センターが取り組むフィリピンやカンボジアの恵まれない子供たちの支援事業を紹介しながら「世界の政治、経済構造の中で疎外され、貧困、飢餓に直面している子供たちの存在を、宗教者として見過ごすことはできない」と、南北問題、南北格差の問題への取

り組みも宗教者が平和の担い手となる条件を満たす上で、避けて通れない課題の一つだという見解を示しました。

また、96年から毎月欠かさず続けているRNNの定例会の何でもいい合えるアットホームな雰囲気を紹介して、「RNNではこの定例会を基盤として様々な宗教協力や宗務活動が生まれてきた。宗教者同士が交流し、相互理解を深めることは重要なことで、時には楽しく懇親を深めることも大切なこと」と、宗教者同士の交流が盛んになることに期待を寄せました。

宗教の違いを越えて行動を

永宗副委員長は、学校をはじめ、地域、家庭の中での宗教教育がメインとなっていないとして、宗教者がその教育の担い手になってどうアプローチしていくかが課題だと主張し、日本という恵まれた環境の中で、いかに宗教心を育み、目に見えない命を認識し、生かされているという立場を認める人間となることのできるのか、を考えていかねばならないと述べました。さらに「宗教者、信仰者の活

動というのは、とかく同じ宗教単位での活動になりがちだが、内にこもらず、いろいろな宗教が心を開いてネットワークを構築して活動すれば、一つの宗教だけでは到底できないような大きな活動も生まれてくる」と語りました。

平和の担い手になるために

これらの発言を受けてブラウン牧師は「私が宗教と出会って一番変わったことは人の命の大切さを知ったということ。今日は「宗教は平和の担い手になり得るか」というテーマでしたが、宗教が紛争になっているという多くの人の誤解を解くためにも、私たち宗教者が平和を担えるように努力していかなければならないという思いを強くしました」とコメントされました。

参加者を代表してフィリピン・ネグロス教育親運動に取り組む辻野ナオミさんから感想が寄せられ、最後にコーディネーターの後藤神父が「私たち宗教者は、ネットワーク、フットワークを使って積極的に平和を担えるように取り組んでいかねば」と述べ、パネルディスカッションを終えました。



コーディネーター RNN副委員長
後藤正史 岡山カトリック教会主任司祭

RNNメンバー紹介シリーズ④ K P A C 金光教平和活動センター



藤井泰雄理事長（中央手前）
右から西村美智雄専務理事兼事務局長、
西村真智子事務局長、松田慧子事務局長

金光教本部広前祭場

ボジアでの教育支援と社会開発、国内外の災害等への緊急支援を行っています。

事務局長のスタッフは、藤井泰雄理事長を筆頭に、RNN委員長を務めている西村美智雄が専務理事と事務局長を兼ね、今年10月に開設したK P A Cマニラ事務所前に事務局長の金井訓が駐在、松田慧

K P A C 金光教平和活動センターは、アジア地域の開発途上国における教育、福祉、人権擁護等の支援事業に取り組む国際協力NGOです。

設立は1988年、人類最初の被爆地である広島で生まれ、96年に現在の金光町に移転。99年には、宗教NGOでは全国初の特定非営利活動法人を取得しました。

現在、フィリピン、タイ、カン

KPACが支援するフィリピンの子供たち



子と西村真智子の事務局長で日々の業務を進めています。

KAPACの活動を支えている金光教の信仰は、人は皆神の子であり、神と人、人と人、人と万物が共に生きる世界を実現していくというもので、あらゆる違いを乗り越え、対話と実践によって世界の平和構築に寄与する立場はRNNの存在意義に通底するものと考えています。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄り下さい。



RNNインフォメーション

●山陽新聞赤井記者がRNN特別メンバーに
第76回定例会より、山陽新聞文化家庭部の赤井康浩記者が参加されています。定例会では、引きこもり問題についてメンバーにインタビューするなど積極的に取材活動を進められています。将来的に「心」(宗教欄)を復活させたいとのことで、今後も特別メンバーとして参加してもらうことになりました。

●バハイからRNNに参加希望

イスラエルに本部があるムスリムの一派、「バハイ」(宗教法人「日本バハイ全国精神行政会」)のメンバーから、RNNに参加したいとの連絡がありました。バハイは、ムスリムの中でも敬虔、穏健な体質を持ち、宗教和合を旨とした理性的な団体です。連絡を頂いたメンバーの方はNGOサミットにも参加されていたということです。

●「そよかぜ友の会」が発足

「そよかぜ友の会」が発足しました。RNNフォーラムの参加者へのアンケートで、加入希望者を募った結果、多くの方の入会希望があり、今後、会員として登録させて頂き、事務局から「そよかぜ」を送らせて頂きます。引き続き、会員募集中です。

●海外災害緊急支援募金

RNNではAMDAが緊急支援を開始した場合、災害の募金を実施しています。募金は下記へ。

義援金、協賛金等送金用郵便振替口座
加入者名=RNN
01310・9・63933

第22回世連岡山大会 11月6日 於神道山西村委員長、黒住事務局長が活動報告

11月6日、黒住教本部で第22回世連岡山県宗教者大会が開催され、記念講演ではAMDAの菅波茂代表が、岡山の行政、NGO、宗教がそれぞれの役割を果たしつつ協働して、国際貢献・人道援助都市岡山を世界に発信していくことを力説されました。また、西村委員長がRNNの活動報告を行い、黒住事務局長は、昨年の9月11日のテロ以降の世界の動向などについて報告しました。



講演する菅波茂氏

世界宗教者祈りとフォーラム 於京都 11月4日 世連全国平和促進東京大会 於増上寺 11月21日

11月4日に第2回世界宗教者の祈りとフォーラムが大本と人類愛善会の主催によって京都リサーチパークで開催され、また21日には東京芝・浄土宗上増寺で第24回世界連邦平和促進全国宗教者東京大会が開催され、黒住事務局長は、それぞれでコーディネーター補佐及びモジュレーター役を務め、総括発言ではRNNの活動も紹介されました。



KPACマニラ事務所開設 10月16日 RNNを代表して永宗副委員長が出席

KPAC (藤井泰雄理事長) のフィリピンの現地事務所 (K P A C - M O) が開設され、10月16日に行われた開所式に、RNNを代表して永宗副委員長 (天台宗本性院副住職) が出席しました。現地事務所は、フィリピンでの活動強化をはかるためのRNNにおいても黒住事務局長と藤原氏とともに国際事業推進で活躍されてきた金井訓KPAC事務局長が派遣されました。9月30日には定例会に合わせて激励会を開催し、メンバーが寄せ書きしたワインが記念品として贈られました。なお、金井氏の転出に伴い、KPAC事務局長は、西村専務理事が兼務するところです。



RNN活動協賛者名

*下記の名称は、協賛者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。

カトリック	黒住教	金光教	最上稲荷教	真言宗	創価学会	天台宗	天理教	プロテスタント	立正佼成会	臨済宗	イスラーム
-------	-----	-----	-------	-----	------	-----	-----	---------	-------	-----	-------